



生育開花予想：白鳳 4/5 頃 ふじ 4/15 頃 ＊平岡付近

初期生育は史上最速で進む可能性が高いです。剪定終了次第、休眠期防除に入ってください。加えて、4 月の凍霜害遭遇の危険性があります。今からできる凍霜害対策は進めてください。

(参考) 生育が非常に早かった年度：H14 H16 H28 H30 ⇒ 過去 20 年で最速は H14

品目名	H14	H16	H28	H29	H30	R1	R2 予想
もも 白鳳開花	4/9	4/15	4/10	4/19	4/12	4/20	4/5 ?
りんご ふじ開花	4/19	4/22	4/21	5/1	4/21	4/30	4/15 ?
巨峰 発芽	4/15 (果樹試)	4/20	4/21	4/28	4/21	4/28	4/13 ?

【重要なお知らせ】りんご・もも栽培日誌の配布について

本年も安全・安心への取り組みとして栽培日誌の記入・提出をお願いします。本来であれば 3 月に配布するところですが、現在名簿の整備等を行っています。つきましては、日誌の配布は 4 月の組合員訪問を予定しています。出荷者の皆さんにはお待たせして申し訳ありませんが、しばらくお待ちください。尚、3-4 月の防除日等の必要事項はひとまず果樹特報等に記載しておいてください。ご迷惑をおかけしてすみません。

【特集 黒星病防除 2020 のポイント】 ＊早期感染拡大に最大の注意を！

感染期は 4～5 月（展葉後～落花 20 日後）です。逆に言えば、この期間をしっかりと防除すれば、果実感染を防ぐことが可能です。詳しくは時期の特報によりますが、防除日程見込みは下記になります。殺菌剤のみ記載。

- ① 定期 4/1～5 頃：ベフラン液剤 1,000 倍（治療+予防） ＊目安：展葉直後～展葉 3 日後まで
 - ② 特散 4/8～12 頃：パスポートフロアブル 1,000 倍（予防） ＊目安：展葉 4～5 枚目を狙って
 - ③ 定期 4/15～20 頃：オルフィンフロアブル 4,000 倍（治療+予防） ＊ふじの開花期を狙って
 - ④ 定期 4/25～30 頃：ユニックス 1,000 倍+スコア顆粒水和剤 3,000 倍 ＊連休前の散布
 - ⑤ 定期 5/5～10 頃：パレード F 2,000 倍 ＊連休後半～連休後
 - ⑥ 特散 5/15～20 頃：ジマンダイセン水和剤 500 倍 ＊結実確定後。前回から 10 日後
- ⊕ 定期散布が大きく前倒しになる場合は、特別散布を実施して調整してください。尚、特別散布薬剤未購入の場合は予約価格で対応します。
- ⊕ まとまった降雨前の予防散布を基本とします。概ね 10 日間隔で防除を進めてください。



↑ 被害葉（展葉後に感染）

～ 百年ふじの里構築へ ～

春植え用苗木の注文頂きましてありがとうございました。本年で導入から 8 年目を迎え、この秋までには合計苗木数で約 6,000 本・面積で約 30 ㌦規模の生産基盤が構築される見込みです。部会・JA では「百年ふじの里」構築にむけて園芸特別対策事業等を活用して苗木助成を中期的に実施していく予定です。市内各地でふじの老木化・生産性低下が顕著な状況です。つきましては、この機会に百年ふじを中心に生産基盤の若返りを図ってください。春植え用苗木の配布は 3/23～を予定しています。植え込みの準備を進めてください。

本年のせん孔細菌病対策について

近年、中野市内の広域で桃・ネクタリンの「せん孔細菌病」が多発傾向です。
防除していく上で重要な「春型枝病斑」は、主に開花期から発生が見られるようになります。本年は平年よりも生育が大幅に進むと予想されておりますので、園内点検・防除対策の準備を早めに進めて下さい。
以下に、せん孔細菌病の生態や防除についてポイントを記載しますので、改めてご確認いただき、徹底防除をお願いします。

①せん孔細菌病の生態について

- ・越冬場所 昨年伸びた枝の落葉痕や皮目
- ・越冬菌が潜伏する時期 主に 9 月～10 月
- ・越冬菌が潜伏する気象条件 強風と降雨、台風襲来時
- ・越冬菌が発生する時期 翌年の 4～6 月に「春型枝病斑」となって発病
- ・感染拡大の気象条件 適温：25℃（15～30℃）
葉：最大風速 10m、降水量 5mm
果実：最大風速 5m、降水量 20mm



果実病斑（幼果期）



葉病斑

②せん孔細菌病のストレプトマイシン（アグレプト水和剤等。以下、ストマイ）感受性低下菌検出状況について

○調査機関：長野県果樹試験場 ○調査地域：中野地域（中野市上今井も含む）

表 中野地域のモモせん孔細菌病発生圃場面積と感受性低下菌検出率 長野県果樹試験場より情報提供

調査年度	作付面積 (ha)	程度別発生面積(ha)					発生面積 割合(%)	ストレプトマイシン感受性低下菌 ¹⁾	
		甚	多	中	少	計		調査圃場数	検出圃場割合(%)
2013年	250	0	0	3	80	83	33.2	5	20.0
2014年	248	0	2	10	100	112	45.2	10	10.0
2015年	240	0	0	3	80	83	34.6	5	20.0
2019年	225	0	3	25	130	158	70.4	14	28.6

1)無～少発生圃場では低感受性菌発生の可能性は少ないと想定されるため、中～多発生圃場について調査

- ポイント①・・・ストマイ感受性低下菌は、以前から検出されている。（2013 年以前にも検出された経過がある）
ポイント②・・・せん孔細菌病が多発しているからといって、感受性低下菌が検出されるとは限らない。
むしろ、感受性低下菌が検出されない圃場の方が多い。
ポイント③・・・オキシテトラサイクリン（マイコシールド等）の感受性低下菌は検出されていない。

③せん孔細菌病の防除対策について

- ・春型枝病斑の除去（重要） 4 月から 6 月まで、7～10 日間隔で園内を点検し、徹底して切除する。
枯れ枝も含めて切除する。切除した枝は、園外へ持出して処分する。
- ・有袋栽培を実施する 無袋よりも有袋栽培。また、早期袋かけ(6 月中旬)により、
果実感染を軽減できる場合があります。
- ・夏型枝病斑の除去 夏型枝病斑(8～9 月頃に散見)は、見つけ次第切除する。
- ・防風ネットの設置 防風ネット・防風林を設置する。（高さ 3m 以上）



春型枝病斑（先枯れ症状）

④農薬散布について

- ・散布方法 散布ムラがないように、散布量を増やしたり、風圧や S S 走行速度を調整する等、留意する。
- ・散布間隔 落花期から袋掛けまで、10～14 日以内の間隔で散布を徹底する。
散布予定日に降雨が予報されている場合は、前倒しで散布を実施する。
- ・秋季ボルドー散布 9 月上中旬頃（または収穫後）～、14 日間隔で最低 2 回実施する。
農薬がよくかかるように、徒長枝・太枝の整理を実施してからボルドー散布を実施する。

⑤栽培品種の選択について

- ・せん孔病が多発傾向の品種 黄肉品種（黄金桃、黄貴妃など）、ネクタリン全般、極晩生種（9 月に収穫する品種）
- ・発生が少ない傾向の品種 早生品種（8 月中旬までに収穫する品種。黄肉品種を除く）、なつっこ、ゴールデンピーチ

＊せん孔細菌病の発生状況を踏まえて、品種構成の見直し、場合によっては品目転換も選択肢の一つに挙げられます。